

30年2月分

問屋、仲買・小売商の先行き動向調査

1. 調査実施期間

平成30年 2月1日～ 30年2月10日

2. 調査実施方法

東京、大阪、名古屋の問屋、仲買・小売商に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は42社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight. D. I.

| 品目 | | 30/2月 | 3月 | 4月 |
|------|-----|-------|-------|-----|
| 仕入動向 | 国産材 | 0.0 | △ 1.5 | 4.7 |
| | 外材 | △ 2.6 | △ 3.9 | 5.6 |
| 販売動向 | 国産材 | 4.4 | 2.9 | 0.0 |
| | 外材 | 0.0 | △ 1.3 | 4.2 |
| 在庫動向 | 国産材 | △ 1.5 | △ 7.6 | 1.6 |
| | 外材 | △ 4.2 | △ 9.7 | 4.4 |

・国産材の仕入動向は2月の横ばいから3月は減少、4月は増加に。外材は2月、3月の減少から4月は増加に。

・国産材の販売動向は2月、3月の増加から4月は横ばいに。外材は2月の横ばいから3月は減少、4月は増加に。

・国産材、外材の在庫動向は2月、3月の減少から4月は増加に。

(2) 価格動向 Weight. D. I.

| 品目 | 30/2月 | 3月 | 4月 |
|----------------|-------|-------|------|
| スギ正角(グリーン) | △ 1.9 | △ 1.9 | 0.0 |
| スギ正角(KD) | 8.9 | 5.4 | 3.8 |
| ヒノキ正角 | 15.5 | 12.5 | 3.7 |
| ヒノキ土台角 | 15.5 | 8.6 | 3.7 |
| 米ツガ正角(現地挽) | 29.2 | 12.5 | 8.3 |
| 米ツガ防腐土台角 | 18.8 | 6.3 | 2.1 |
| 米ツガ割物(現地挽) | 27.1 | 8.3 | 2.1 |
| 米マツ平角 | 31.0 | 20.7 | 16.7 |
| 北洋アカマツタルキ(現地挽) | 6.7 | 5.0 | 5.4 |
| ホワイトウッド集成管柱 | 12.1 | 6.9 | 3.6 |
| レッドウッド集成平角 | 17.9 | 10.7 | 11.5 |
| 型枠合板(輸入) | 37.5 | 26.8 | 11.5 |
| 針葉樹構造用合板 | 19.2 | 11.5 | 4.2 |
| 針葉樹構造用合板(厚物) | 20.0 | 16.0 | 4.3 |

・スギ正角はグリーン、KDとも保合。
・ヒノキは正角、土台角とも保合。
・ツガは正角(現地挽)、土台角、割物(現地挽)とも品薄で強含み。
・米マツ平角は品薄状態で強含み。
・北洋アカマツタルキ(現地挽)は保合。
・WW集成管柱は保合。
・RW集成平角はやや強含み。
・型枠合板(輸入)は品薄のため強含み。
・針葉樹構造用合板は保合。